

資料-1

# 第2回 大井川河道整備検討会

平成29年 3月3日

静岡河川事務所

H28.6.27撮影

# － 目 次 －

1. 第1回検討回(H28.8)の指摘事項と回答.....	1
-------------------------------	---

# 1. 第1回検討会(H28.8)の指摘事項と回答

## 1) 指摘事項と回答・対応方針

○平成28年8月の第1回検討会では以下のような意見があった。回答、対応方針について示す。

No.	第1回河道整備検討会での指摘事項	回答・対応方針
1	牛尾付近については航空写真を見る限り滞筋が変動している。これは、この地点の砂州が固定化されておらず現時点では河床変動があることを示している。経年的な滞筋の状況を踏まえて常に砂州となっている箇所を掘削するという方針が良いのではないか。(参考資料①)	H27の航空写真では、滞筋が右岸側によっているがこれは工事による仮締切による影響であり、実態としては滞筋は経年的に左岸側に形成されている。 現行の掘削予定箇所は、砂州が固定化されている右岸側が中心である。 (参考資料②)
2	<b>非公開情報が含まれるため公開していません。</b>	
3	保全対象種の中でシロウオ、ミミズハゼは湧水に依存する。重機による掘削の際には湧水のみずみちを断たないよう配慮する必要がある。	指摘事項を反映した掘削方法を提示する。 平水位以下の掘削を極力避けることにより、湧水への影響を抑制する。
4	河口部ではなぜ近年堆積し始めたのか。現在の流量では掃流力が足りず、堆積し続けるのではないのか。	平均河床高の長期的なトレンドより、洪水の生起状況に応じて河床変動が生じていることが確認できる。地点によっては、H25河床からH27河床で低下傾向となっている箇所もあり引き続きモニタリングにより河床の変動傾向を確認する。(参考資料③)
5	河道掘削等により、裸地を創出してもすぐに変化する可能性も考えられるが、そのような場合でも一時的な裸地創出を目指すのか。	今後、裸地の創出による影響等をモニタリングし、裸地創出の妥当性を確認する。
6	上下流バランスの観点から、上流部(牛尾付近)の河道掘削を先行して行うことは適切なのか。	上流部(牛尾付近)と下流部(河口部)の河道掘削は同じ時期に実施するため、影響は小さい。
7	第2回検討会ではモニタリング計画の項目が出てくるが、5年間の計画をどう将来計画につなげて役立てていくかという観点で検討してほしい。	本検討で示すモニタリング計画により、得られた知見を今後の河道掘削の参考資料として活用していく。

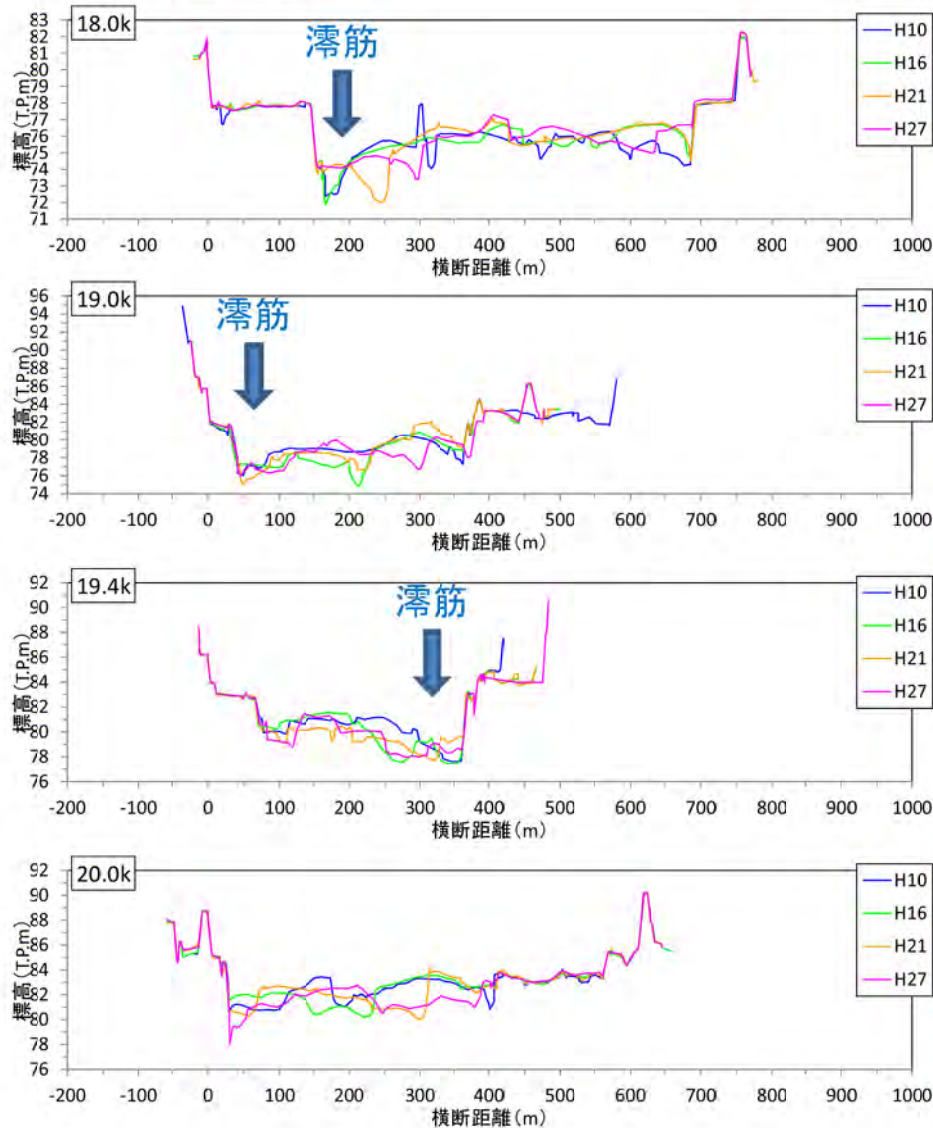
# 1. 第1回検討会(H28.8)の指摘事項と回答

前回検討会資料 抜粋

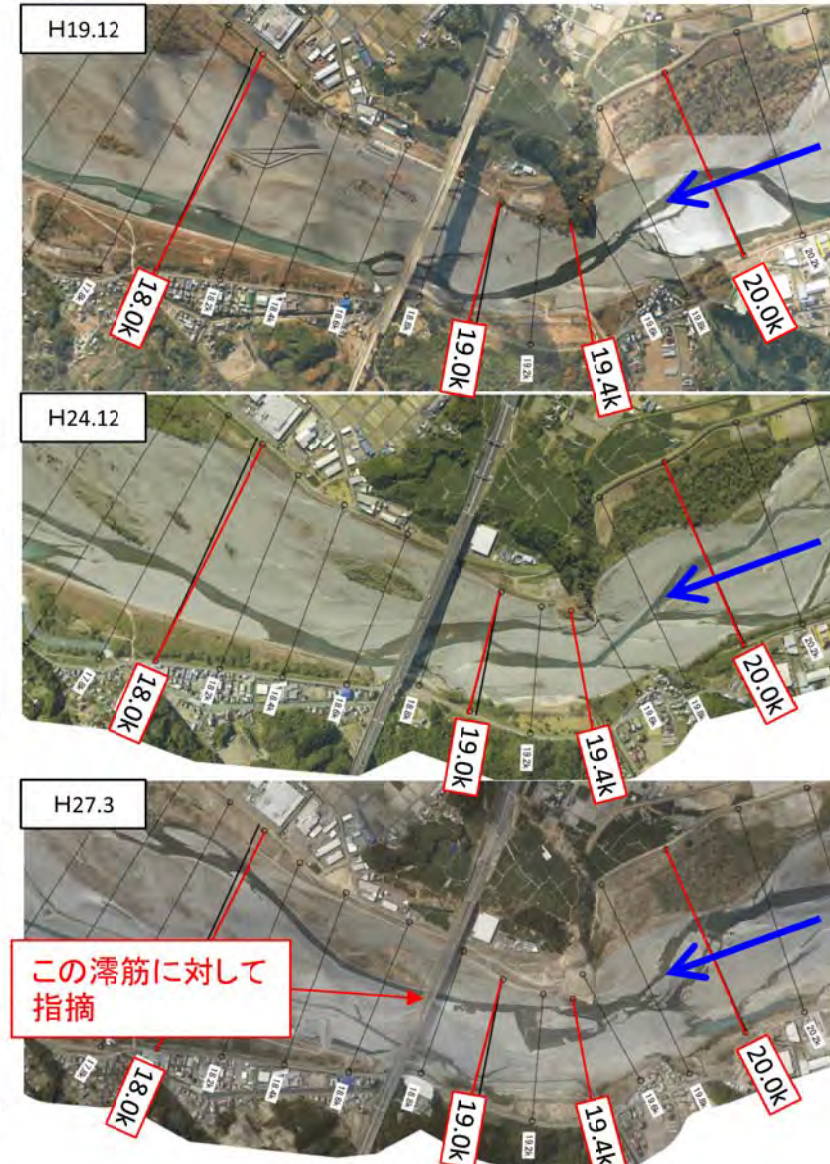
参考資料①

○牛尾狭窄部より下流側は、狭窄部近辺(19.4k)はみお筋が右岸寄り、19.0k付近から下流側で滞筋が左岸側低水護岸沿いに寄る傾向は変わらず、経年的な滞筋の変化は小さい。

■横断面図(18.0k~20.0k)



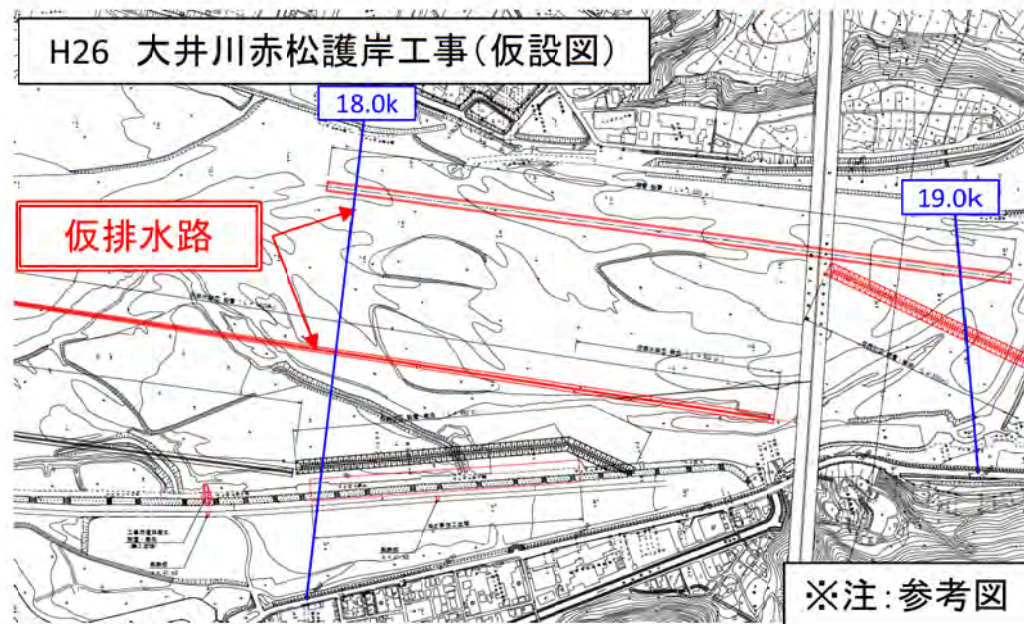
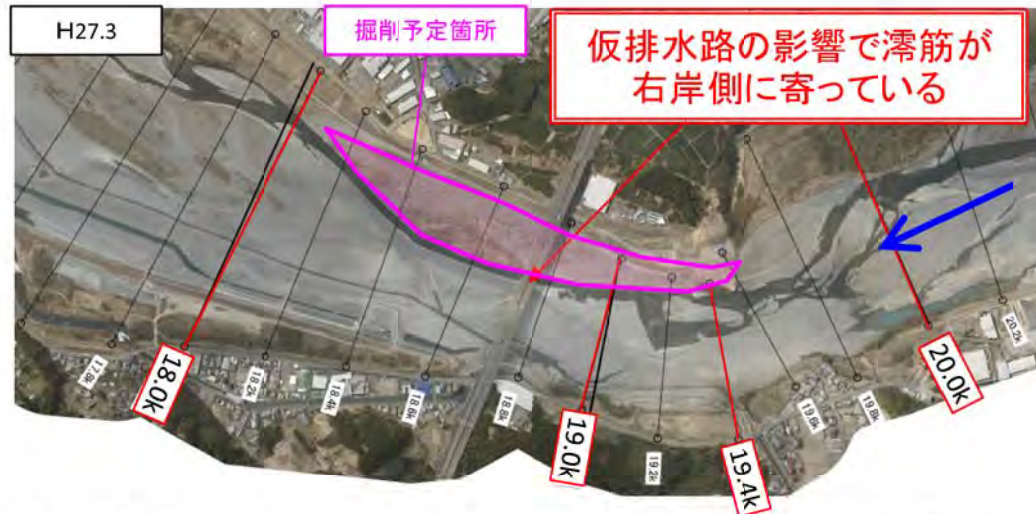
■航空写真(18.0k~20.0k)



# 第1回検討会(H28.8)の指摘事項と回答

参考資料②

○H27.3航空写真では滞筋が右岸側に形成されているが、これは工事による仮排水路の影響であり、通常は左岸側に滞筋が形成されている。



○平均河床高の変動より、近年は流下能力が不足している2k下流での河床変動は小さいことが分かる。

